



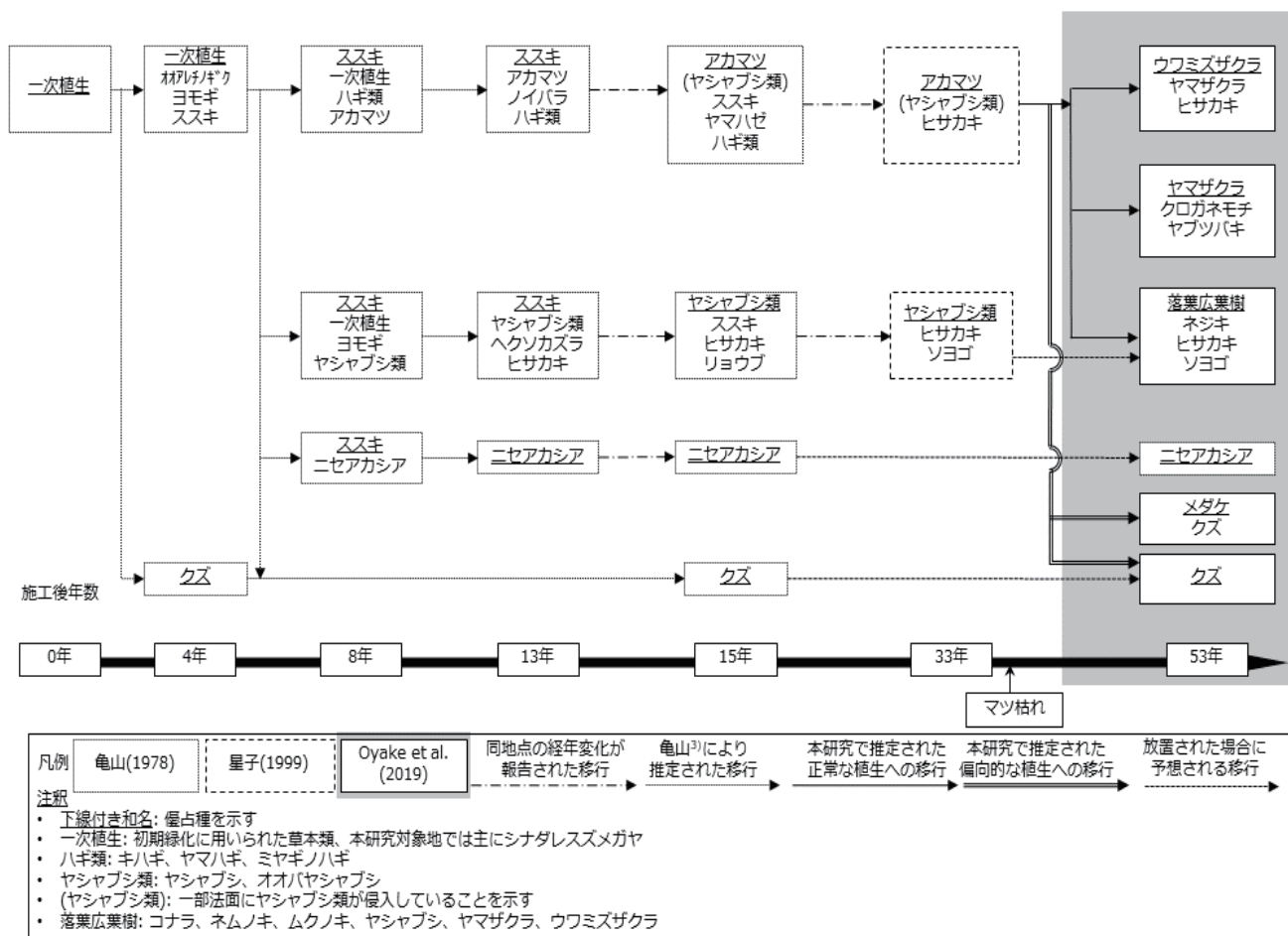
植生の動態を考慮した 緑化地評価手法の検討

創造工学部 創造工学科 建築・都市環境コース 講師 小宅 由似

研究シーズの概要

緑化地では管理頻度の低減や防災効果の向上などの機能発揮の観点から森林を目指すべきとされていますが、単に「木が多く生育しているだけ」ではその機能を十分に発揮できず、機能発揮には出現種とその割合（種組成）、垂直構造の複雑さが重要です。あわせて、種組成や垂直構造は「鬱蒼とした森」に向かって数十年～数百年のタイムスケールで変化していきます（植生遷移）。こうした植生の特徴と動きを考慮した緑化地の評価ができないか、検討を行っています。

■ 緑化地における植生の変遷の整理





緑化地は自然の森林とは土壌も周辺環境も異なり、植生の動態も異なる可能性が指摘されています。牧草種子が播種された緑化法面における植生遷移を追跡することにより、自然の森林との植生の差異や共通項を検討し、経過年数ごとの緑化成績評価基準の作成を試みています。

■ 植栽地における植生の垂直構造の変化

苗木植栽を行った緑化地では、播種あるいは自然侵入にまかせた緑化地と比べて経年に伴う種組成の変化はあまりみられません。一方で、多くの植栽苗が細長く生き残ることによる「モヤシ林」現象が問題となります。緑化時の種組成・植栽密度と経過年数ごとの垂直構造の関連性を調べ、モヤシ林化を防ぐことができる条件を探索したいと考えています。

【利用が見込まれる分野】 斜面緑化、樹林化、緑化成績評価、緑地管理計画

研究者プロフィール

小 宅 由 似 / オ ヤ ケ ユ イ



メールアドレス	oyake.yui@kagawa-u.ac.jp
所属学部等	創造工学部 創造工学科 建築・都市環境コース
職位	講師
学位	博士（農学）
研究キーワード	緑化、緑地管理、植生遷移

問い合わせ番号：EN-21-007

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
直通電話番号：087-832-1672 メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp